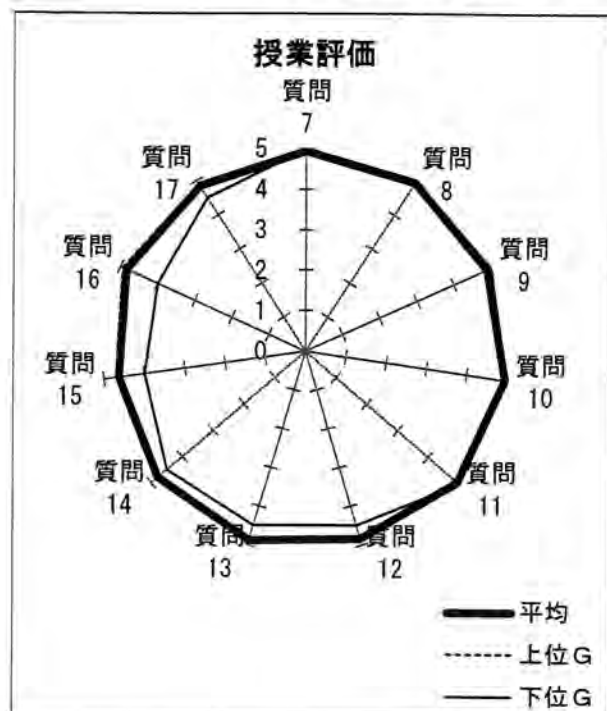


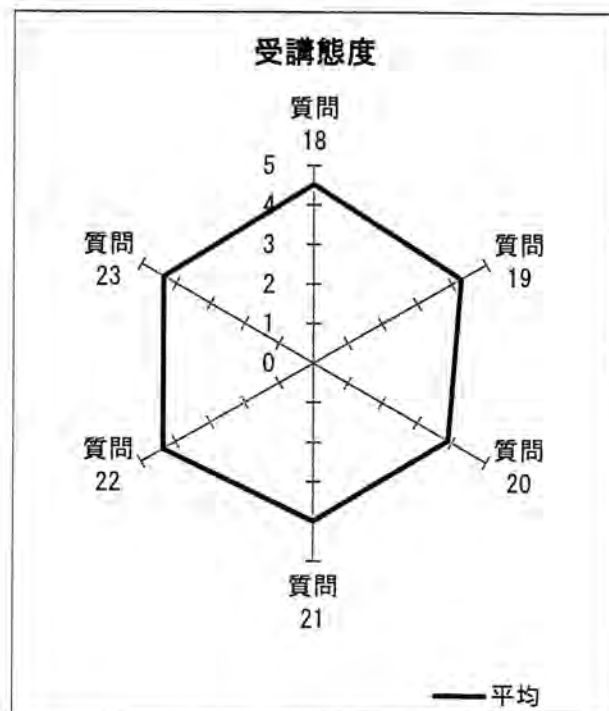
科目コード 102 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 上野 葉子 アメリカ文学入門



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.9	4.5
質問13	4.9	4.9	4.5
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.8	4.9	4.0
質問17	4.8	4.9	4.5
平均	4.9	4.9	4.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	3.9
質問21	4.0
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛。教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	上野葉子	アメリカ文学入門	19

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

1. 分析と評価

全体の平均が 4.9 であり、良い結果であったと思う。シラバスの遵守や時間厳守、教材等の効果的な使用、質問への対応などにおいて 4.9 であり、否定的な回答をした学生はなく、良い結果が得られた。最近では文学に興味をもたない学生も多いため、映像化されているものを多く取り入れるようにしているので、扱っている内容に親近感をもってもらえたのではないかなと思う。

質問 15 の「(自分は) 授業を理解できたと思うか」については他の項目に比べて低い値の 4.6 になっている。英語力を伸ばすため、英語で書かれたテキストを使っているので、理解しづらいと感じる時もあったのかもしれない。ただし、理解できなかったという回答はなかったので、おおむね理解できたと考えて良いと考える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

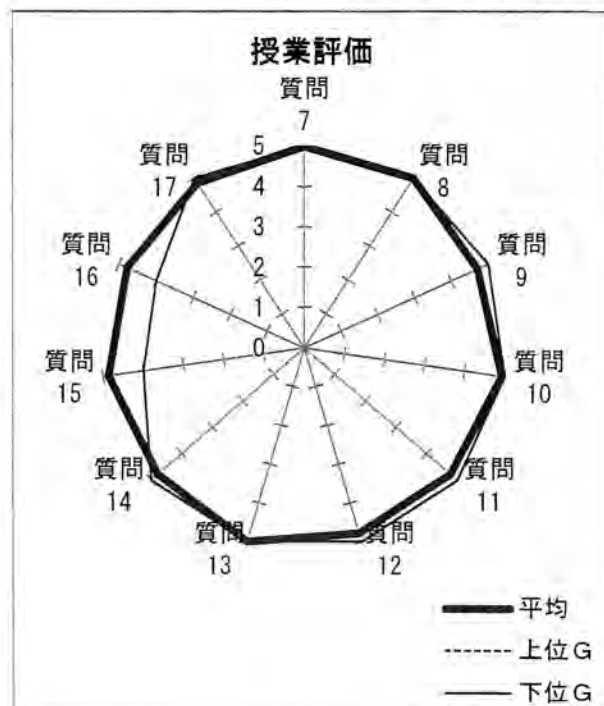
2019 年度担当予定科目名： アメリカ文学入門

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今後も、学生が理解しやすいように工夫を重ねたい。学生の英語力にも差があるため、学生の理解度に注意を払い、反応を見ながら補足の説明を加えるなど、丁寧に対処したい。

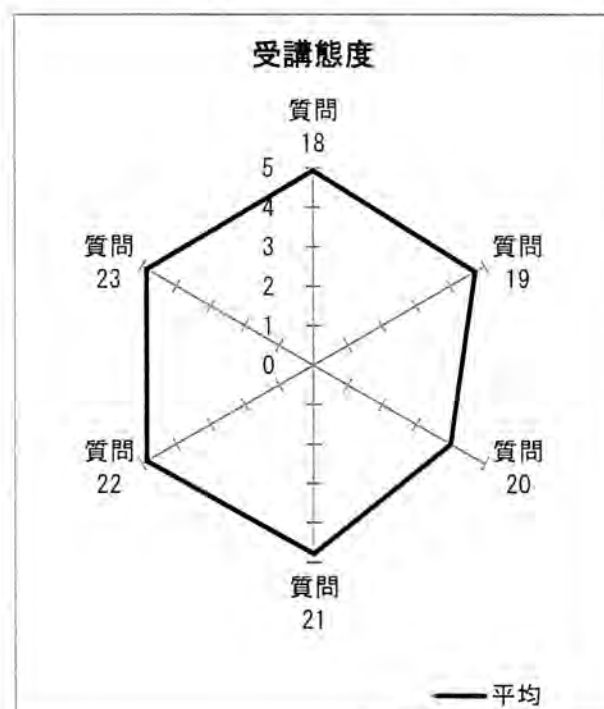
科目コード 105 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 香川 実成 SPI非言語分野対策演習



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.7	4.7	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.9	4.9	4.0
質問16	4.8	4.8	4.0
質問17	4.9	4.8	5.0
平均	4.9	4.9	4.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.0
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	香川実成	SPI 非言語分野対策演習	14

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業内容は e-Learning 用ビデオ教材なので、平均 4.9 とはいっても、それは担当者の能力によるものではなく、学生自身が努力したこと、及び、ビデオ教材のレベルが受講生の数学の能力・理解度と合致していたためであろう。

しかし一方で、毎回配付するエクストラ課題については、出版されている SPI 問題集を相当数吟味・比較した上で厳選したつもりである。就職活動が始まるまでに、できるだけ多くの良質な応用問題を解いて力をつけてほしいとの願いから、授業外の学習時間を確保するよう工夫した。また、エクストラ課題の取り組みも成績評価に組み入れ、授業外での取組みを客観的に評価したつもりである。

II. 2019 年度に向けての取り組み

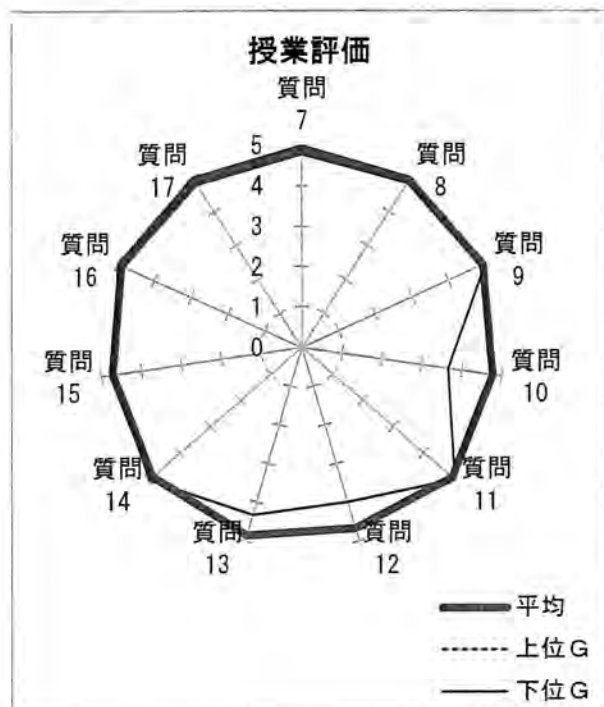
2019 年度担当予定科目名：SPI 非言語分野対策演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

ビデオ教材がやや旧くなってきているので、最新の SPI 非言語分野の出題傾向を夏休み中に研究し、ビデオ教材で不要な回については、新傾向問題をプリント教材の形で提供したいと考えている。

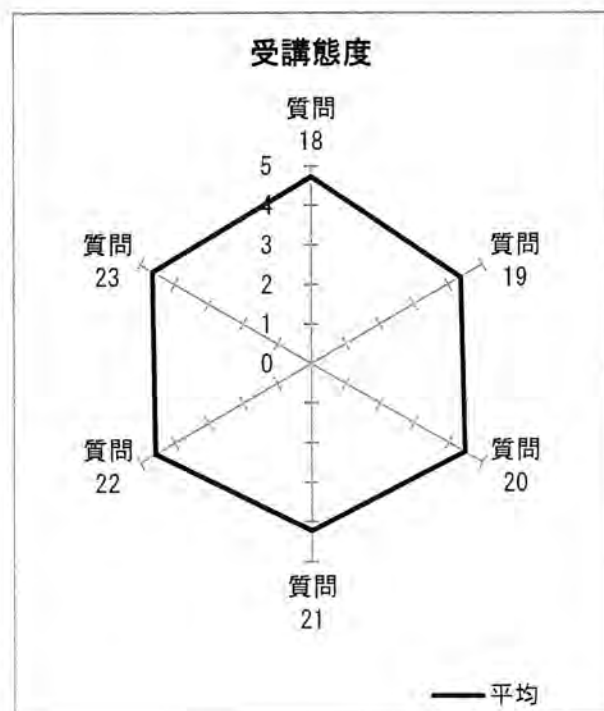
科目コード 115 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 西原 真弓 異文化コミュニケーション論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.8	4.9	3.7
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.7	4.7	4.0
質問13	4.9	4.9	4.3
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.7	4.7	4.7
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	4.8	4.9	4.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.5
質問21	4.2
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	西原 真弓	異文化コミュニケーション論	44 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

異文化コミュニケーション論の履修学生は、必修科目として取る英語学科、選択科目として取る子ども学科と短期留学生で構成されていました。受講自己評価によると 41 名が上位グループ、3 名が下位グループに分類されています。

質問 7～9、11、14、16、17 はどちらのグループも高く評価しています。できるだけ、理解しやすいように説明をわかりやすく工夫したつもりでいたので、そこは評価されているようです。また、興味・関心・意欲を引き出した、さらに、新しい知識・理論等の習得への有用性に関しても高く評価しているのは、授業者としてはうれしい限りです。

問題は、1 名の学生が教材・機器・板書のわかりやすさに関して低く評価をしている点です。この点は気を付けようと思います。

II. 2019 年度に向けての取り組み

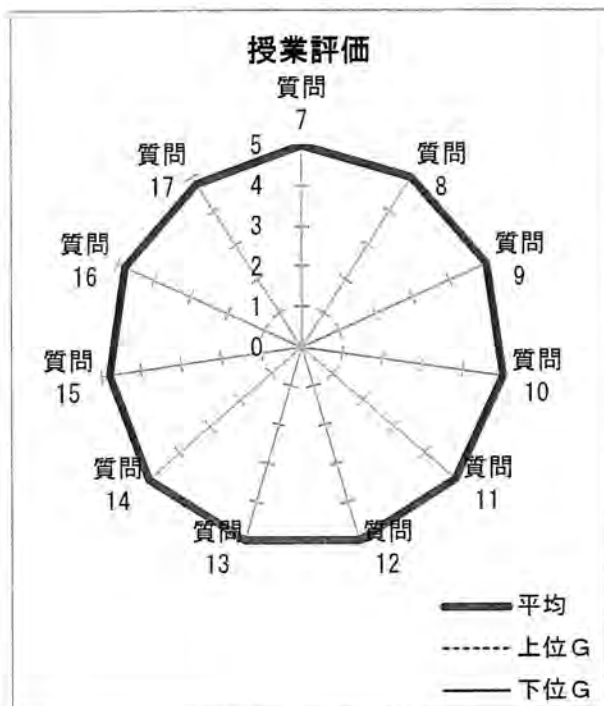
2019 年度担当予定科目名： 異文化コミュニケーション論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

異文化コミュニケーション論は、留学生が履修してくれると、学びが深まるので履修してほしいと思います。ただ、その場合、板書や教材の扱い方は丁寧にしていかなくてはならないので、そこを工夫したいと思います。

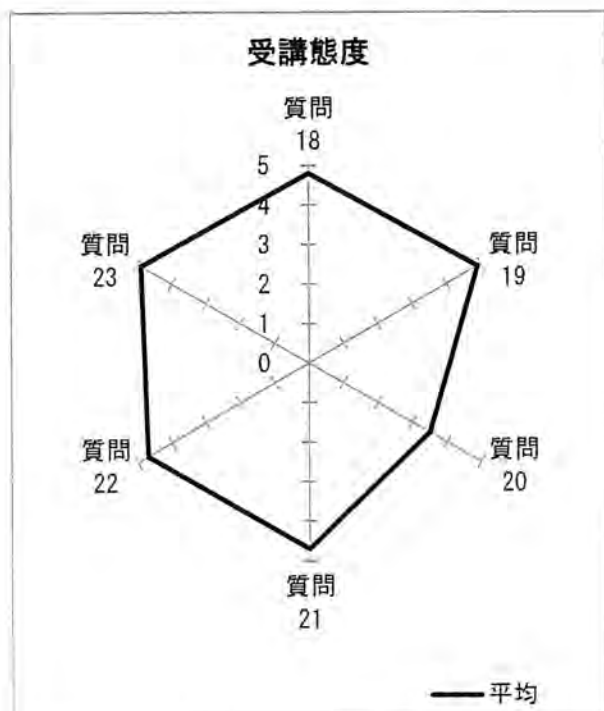
科目コード 116 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 西原 真弓 English Seminar IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.9
質問20	3.5
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.9
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	西原 真弓	English Seminar IV	10 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

English Seminar は、英語学科の必修科目です。受講者全員の受講態度に関する自己評価がある程度高いことから皆が真面目に取り組んだことがわかります。良い意味での緊張感と楽しさをもって授業ができました。教員と学生、学生同士の関わり合いの相乗効果で、授業評価も高かったのだと思います。このクラスでは、学生達の方から単語テストをしてほしいという要望がでるくらい、やる気の高い学生たちでした。

II. 2019 年度に向けての取り組み

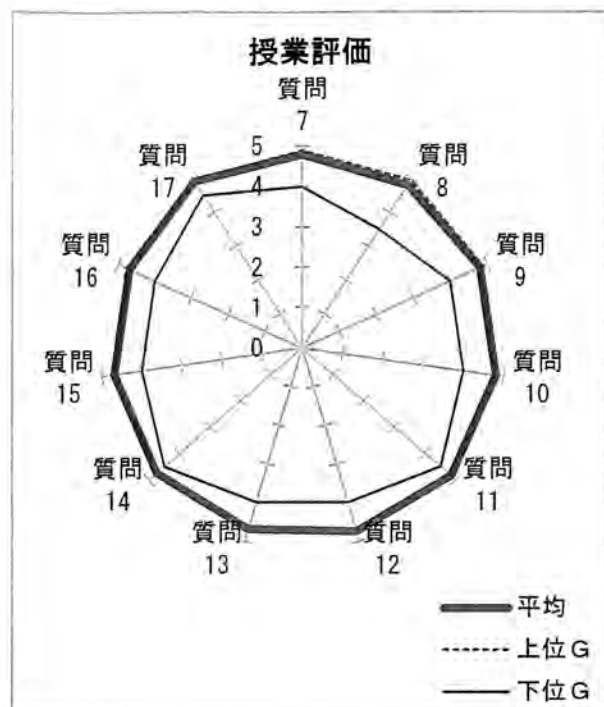
2019 年度担当予定科目名： English Seminar

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

担当する学生の習熟度に応じて、ポートフォリオ等を使ってやる気を出させるための取り組みをしていきたいと思っています。

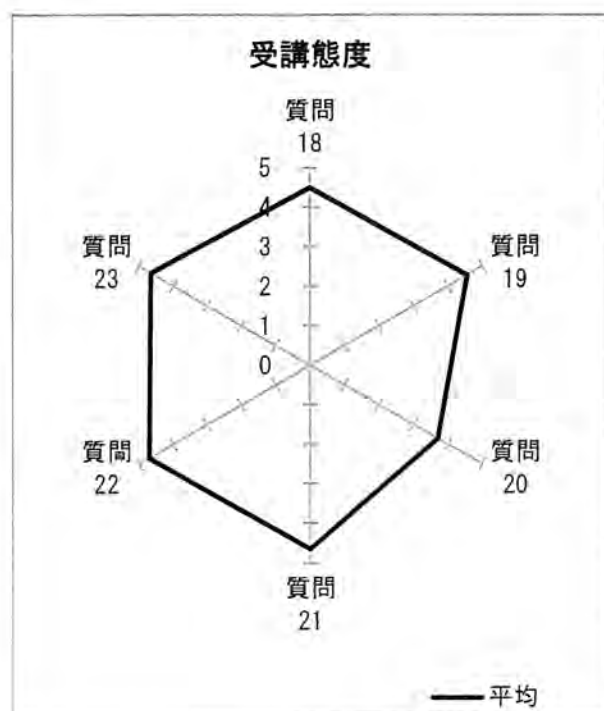
科目コード 120 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 深堀 悦子 Academic Listening IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	3.5
質問 9	4.8	4.9	4.0
質問10	4.8	4.9	4.0
質問11	4.9	4.9	4.5
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.7	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.7	4.8	4.0
質問16	4.7	4.8	4.0
質問17	4.9	4.9	4.5
平均	4.8	4.9	4.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.6
質問20	3.7
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	深堀 悦子	Academic Listening IV	25

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

1. 分析と評価

授業評価の全項目において、学生は概して満足できるものだったと評価している。特に、「教員の説明のわかりやすさ」、「新しい知識・技術・理論等の修得の有効性」が高いことを嬉しく思う。教員は毎回授業時間を遵守したが、おそらく遅刻や欠席が多かった（受講態度下位グループの）1名の学生が、「どちらともいえない」と回答したと推測される。

第一回目の授業において、言語ポートフォリオを用いて学生に明確な学習目標を立てさせ、学期をとおして自己の学習状況をモニターするよう指導した。毎回の授業は英語で行われ、学生は講義形式のリスニング教材を聴きながら、メモを取り、理解度確認のための設問に答えてゆくという形をとった。

授業外の課題として、リスニング・ジャーナルを書かせ、毎回の授業時に提出してもらい、必要に応じてフィードバックを行った。これは学生のリスニング力の向上に役立ったと思われる。学生の受講態度は真面目であり、課題はほぼ締め切りを守って提出された。

II. 2019 年度に向けての取り組み

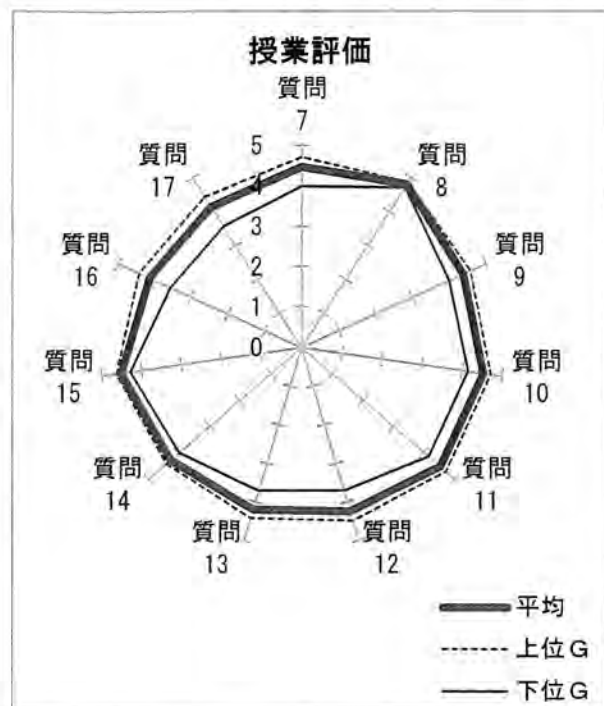
2019 年度担当予定科目名： Academic Listening IV

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生が英語リスニング能力をさらに高めることができるよう授業や課題について工夫してゆきたいと思う。英語リスニング能力を向上させる方法の一つとして、リスニング・ジャーナルは有効であることが判ったので、来年度も続けてゆきたい。

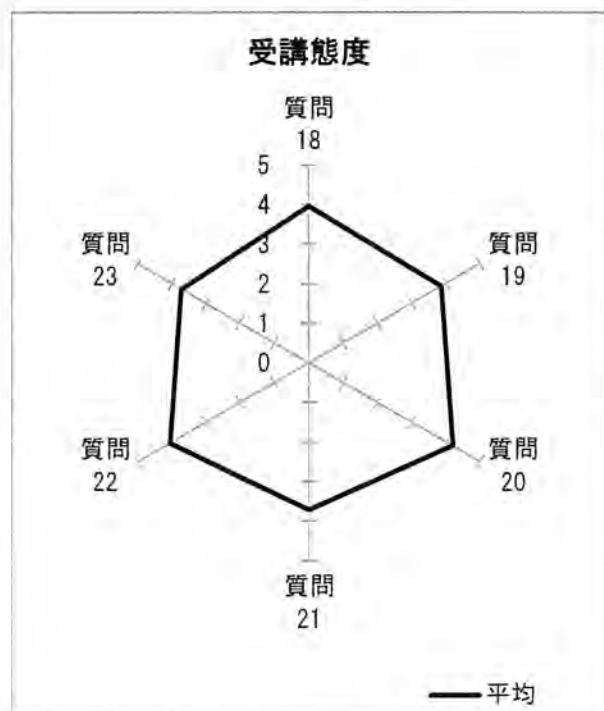
科目コード 121 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 深堀 悦子 English Seminar II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.7	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.7
質問 9	4.4	4.6	4.0
質問10	4.5	4.7	4.1
質問11	4.5	4.7	4.1
質問12	4.2	4.5	3.7
質問13	4.2	4.4	3.7
質問14	4.3	4.4	4.0
質問15	4.5	4.6	4.3
質問16	4.1	4.4	3.6
質問17	4.1	4.4	3.6
平均	4.4	4.6	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.0
質問19	3.9
質問20	4.2
質問21	3.7
質問22	4.0
質問23	3.7
平均	3.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	深堀 悦子	English Seminar II	26

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

1. 分析と評価

この科目は習熟度別クラスだったが、英語力の相当異なる学生が混在し、学生によって予習の進度も異なるという事実を考慮に入れて、授業運営に努める必要があった。授業評価項目のうち、「教員の説明の分かりやすさ」「授業を理解できたと思うか」については受講態度下位グループも含めて、それほど悪い結果ではないが、「質問機会の確保と質問への適切な対応」については、改善の余地がある。

クラス全体に分からない点や質問があるかどうかを尋ねても、別にないとの反応が大半だったため、学生たちが練習問題を解いている間、机間指導を行ったり、分からなかったことがあれば、授業の後でも質問してよいとクラス全体に伝えたが、今後は、毎回の授業でクラス全員に対して質問があるかどうかを確認する機会を増やしてゆきたい。

授業は週 2 回、英語で行われ、英文テキストの内容把握と語彙確認のための練習問題に取り組み、原則として週 1 回 TOEIC 語彙テストを実施し、採点後の返却時に、必要に応じて指導を行った。また、学生の授業に対する理解度を確認するため、中間テストを実施するとともに、オンライン・ワークブックを宿題として課し、その進捗状況を教員が定期的にモニターした。

II. 2019 年度に向けての取り組み

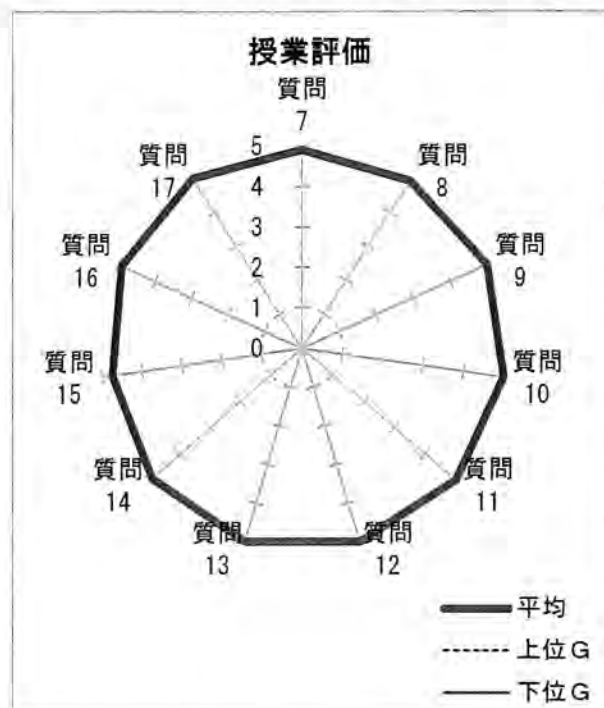
2019 年度担当予定科目名： English Seminar II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

個々の学生のニーズに即した効果的な学習指導を行うとともに、来年度も言語ポートフォリオを用い、学習目標と達成方法の設定、評価と振り返りを通した自律的学習（特に Moodle Reader Module を活用した英文多読）を学生に奨励してゆきたい。

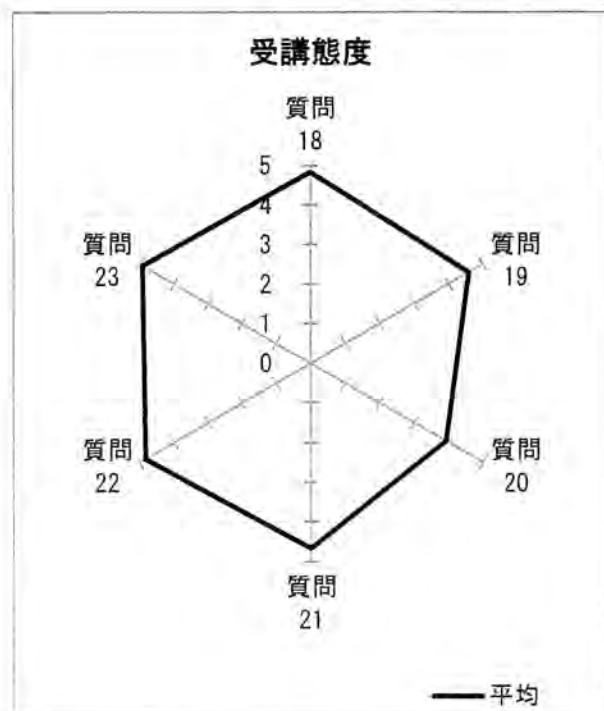
科目コード 130 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 John Anderson Academic English VI



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	3.9
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
Faculty of International Cultural Studies	Department of English	John Anderson	Academic English VI	12

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This was a small class of only 12 students. They were all in the top-level ability group of the third year English students. They were highly motivated, worked hard during class and on out-of-class assignments. According to this survey, they were very pleased with the classroom environment and the way the teacher conducted the class.

The only low score on the survey, at an average of 3.9, was how the students regarded their own attendance, having had to miss class sometimes.

II. 2019 年度に向けての取り組み

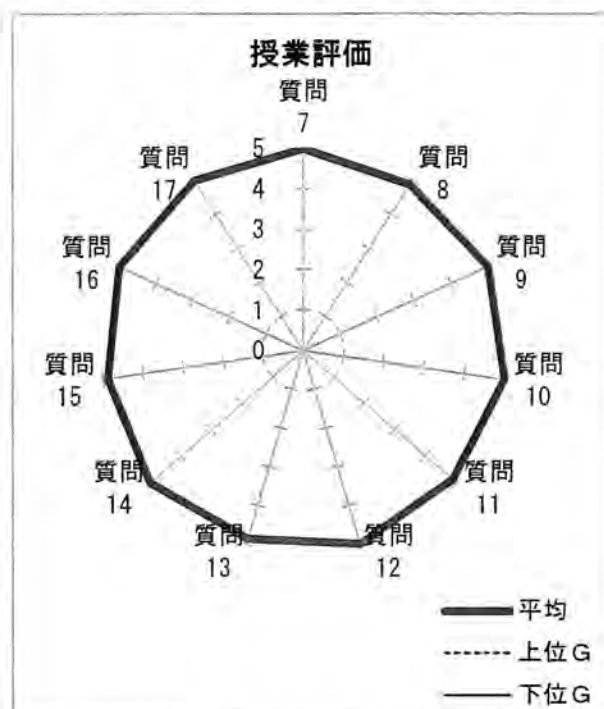
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

In 2019, I will try to make sure that all students again understand the content and purpose of the class (on an ongoing basis) as well as remind and encourage students to preview and review course content regularly.

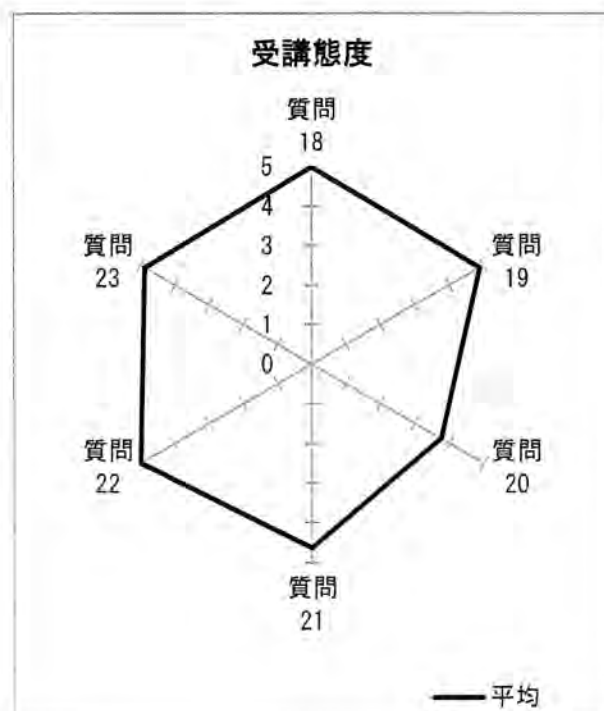
科目コード 131 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 John Anderson Academic English VIII



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.9
質問20	3.8
質問21	4.6
質問22	5.0
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
Faculty of International Cultural Studies	Department of English	John Anderson	Academic English VIII	8

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This class was a small group of only 8 students. Among the 4th year students, this was the lowest ability level group. However, they were motivated to learn and tried hard during class. They were quite satisfied with the way the class was conducted, could understand the teacher's explanations, and all had opportunities to ask questions and participate in class.

Regarding their own efforts, the lowest average score was for their attendance. This being a class of 4th year students, however, the times they were absent were mainly due to job-hunting and related seminars and interviews.

II. 2019 年度に向けての取り組み

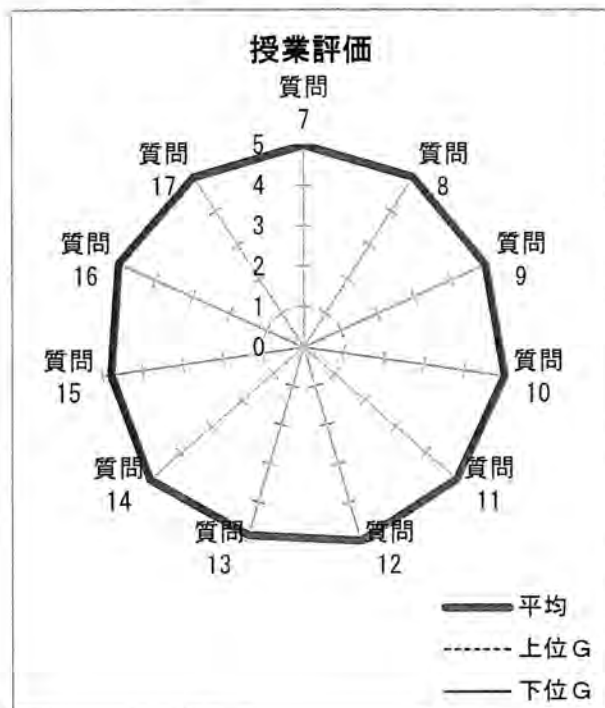
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I would conduct this class in a similar manner if I teach it again next year. Regarding student attendance, I would continue to put all our weekly activities on Moodle, so even if students are absent they would be able to know what they missed and complete required assignments and study.

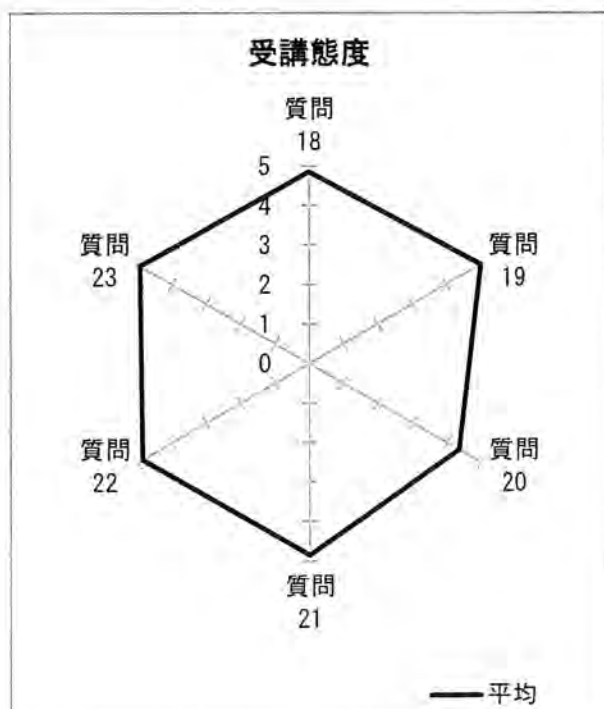
科目コード 135 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent Academic English VI



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	5.0
質問20	4.4
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Academic English VI	14

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

As this was a continuation of the previous semester's Academic English V, the students were familiar with both the class methodology and myself as their teacher. As such, I was pleased to see that they appeared to feel they were learning. As with the previous semester, the text content was a little heavy for this group, so not all of the units in the textbook could be covered. Again, while this meant two units of the textbook could not be taught completely (I did summarise main grammatical points from the units), the pace was more in line with the students' abilities.

II. 2019 年度に向けての取り組み

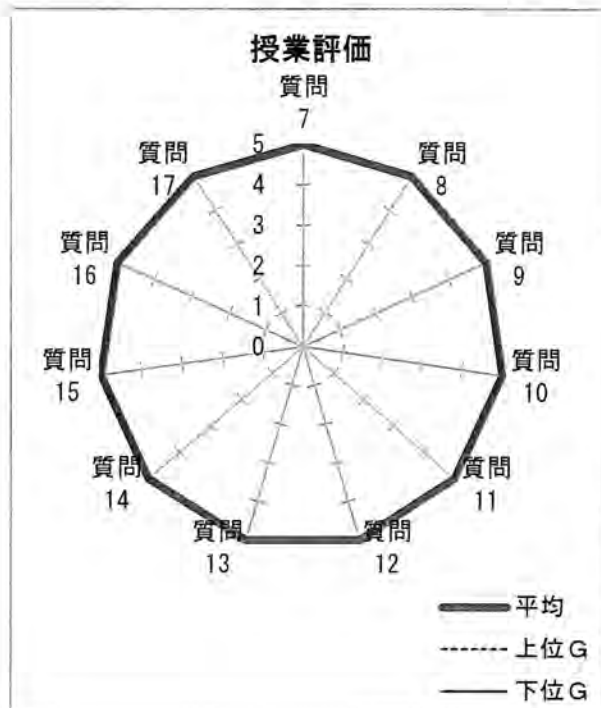
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Starting next year, a newer edition of the textbook will be used. The newer edition covers the same material with slightly different layout and exercises. As such, depending on the ability of the group, if the text is proving to be too difficult to completely cover, it may be necessary to not cover absolutely everything that it has to offer. I would prefer that students learn as such as they can rather than be rushed through too much material in order to finish a text.

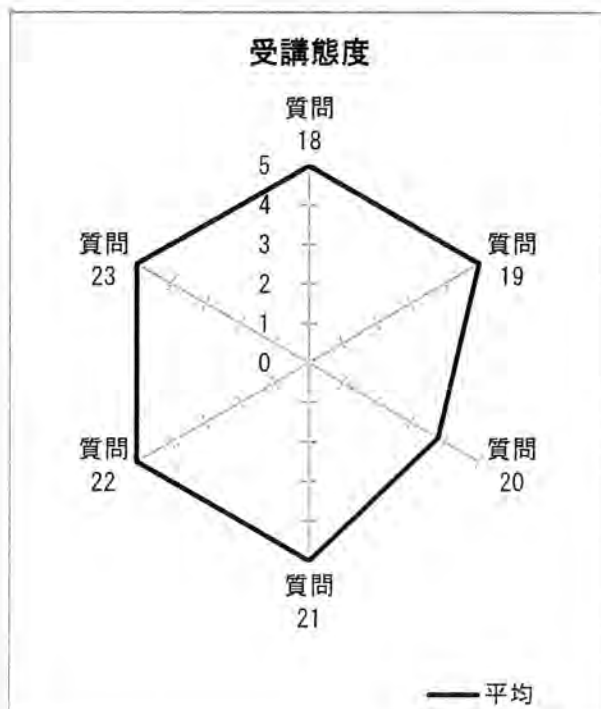
科目コード 137 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent Senior Seminar II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	3.8
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.8

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Senior Seminar II	5

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This course was intended to help students develop their graduation theses and presentations, while also studying a textbook concerned with intercultural communication. Naturally, the emphasis on this semester was more towards the graduation work, and students were given plenty of opportunities to practice and discuss their topics. The response of the students in this course was positive, so it appears they felt the class was useful to them.

II. 2019 年度に向けての取り組み

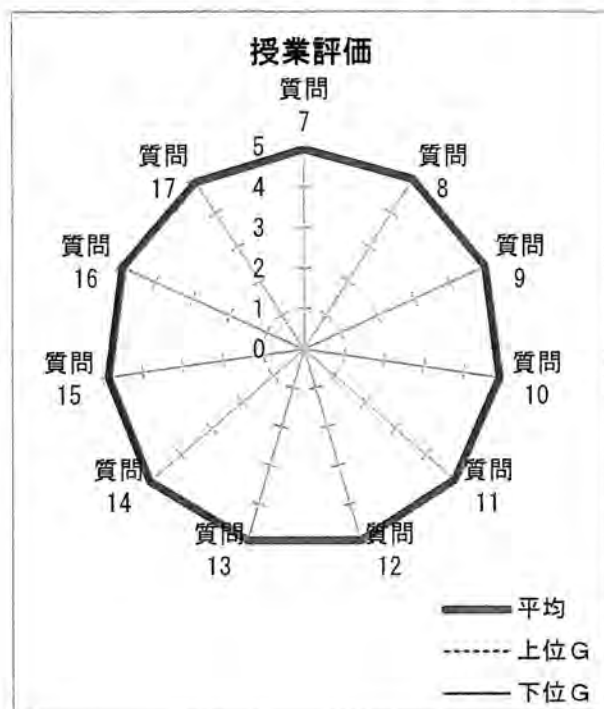
2019 年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

For the next class, I intend to use a different text. Texts will be chosen in order to fit in best with the topics of the students' graduation work as much as possible. Other work, such as practice presentations and discussion of topics as a group and individually will continue in the same manner as this term.

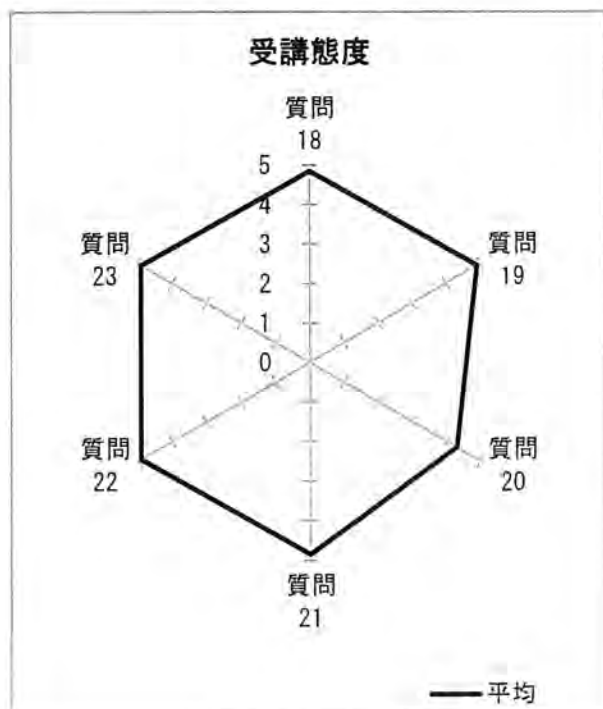
科目コード 138 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent Business English



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	4.3
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Business English	20

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The responses to the questionnaire were overwhelmingly positive, so I can presume the students found this class interesting and useful. As many of the students did not have any background in business English or business in general, some of the concepts discussed in the class may have been difficult to understand, but it appears they learned these ideas without too much of a problem.

II. 2019 年度に向けての取り組み

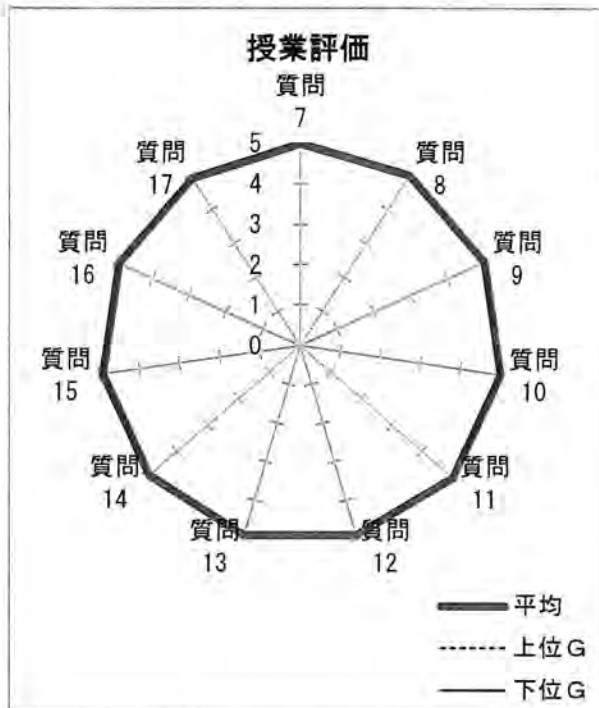
2019 年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

As I have used this text for a number of years now, and the student responses are usually quite positive, I see no reason to deviate from the way the course is taught for now.

科目コード 139 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent Speech



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

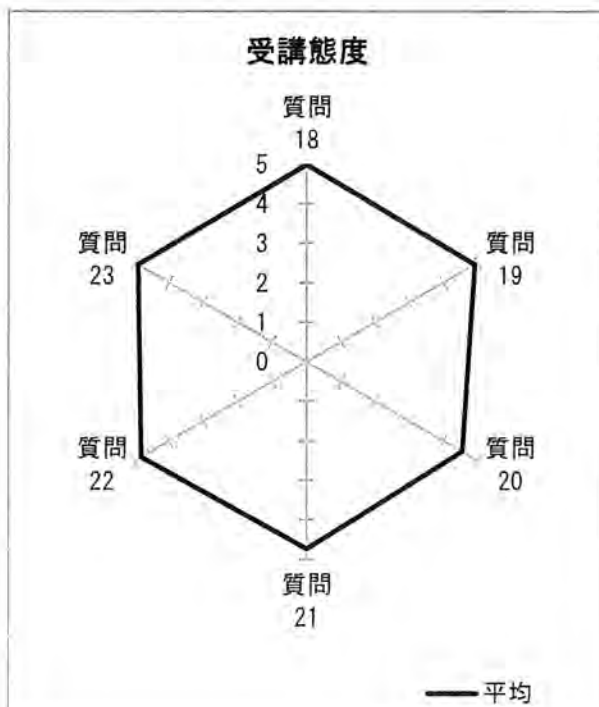
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.9
質問20	4.5
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	Speech	11

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

My aim for this course was to give students as much experience in public speaking as well as speech preparation as possible. The responses to the questionnaire indicate the students enjoyed the class and the lessons helped them to improve their speech writing and presenting skills. I am very happy with the feedback for this course.

II. 2019 年度に向けての取り組み

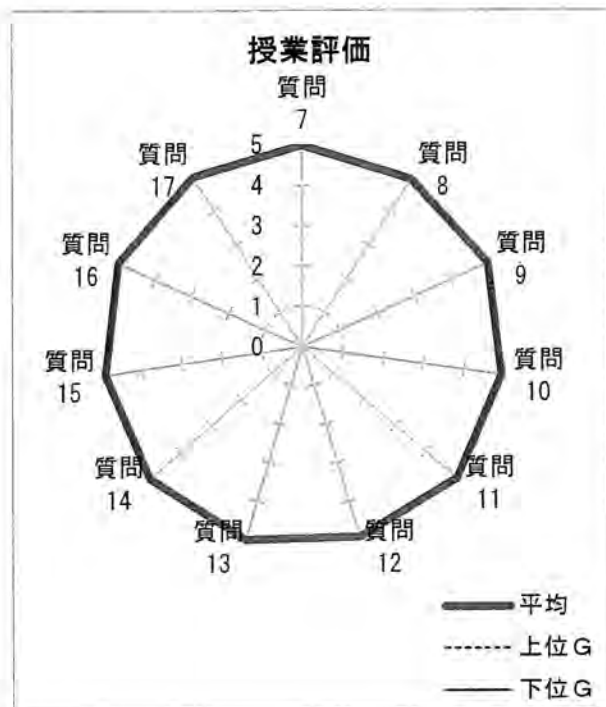
2019 年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

While time is limited for how many speeches can be written and performed, I would like to add another draft to the two which were written for each speech. Peer work and feedback could be increased and if possible more opportunities to watch playback of videos of speeches. This of course largely depends on the number of students in the class.

科目コード 141 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Andrew Gorringer Academic English VIII



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

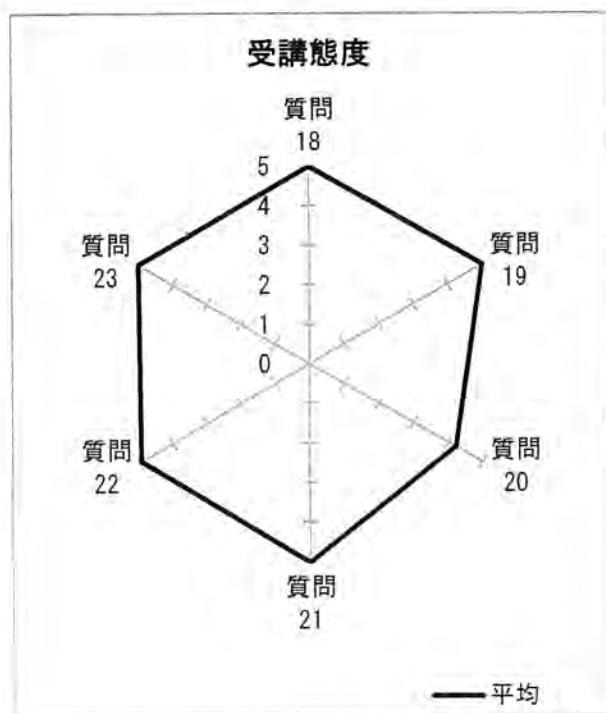
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.2
質問21	5.0
質問22	4.9
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
Faculty of International Culture	Department of English	Andrew Gorringer	Academic English VIII	14

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This class had 14 students and all of them were present for the evaluation. The class was held once a week on Tuesday afternoons (periods V–VI). The textbook that was used was Pathways 4: Listening, Speaking and Critical Thinking (Cengage Learning)

It seems that the students found the class worthwhile and enjoyable. I felt that the students made a great effort in this class to improve their general speaking, listening and speaking skills, and their approach to the class reflected this. The students tried very hard and I thought their attitude to learning English was excellent.

II. 2018 年度に向けての取り組み

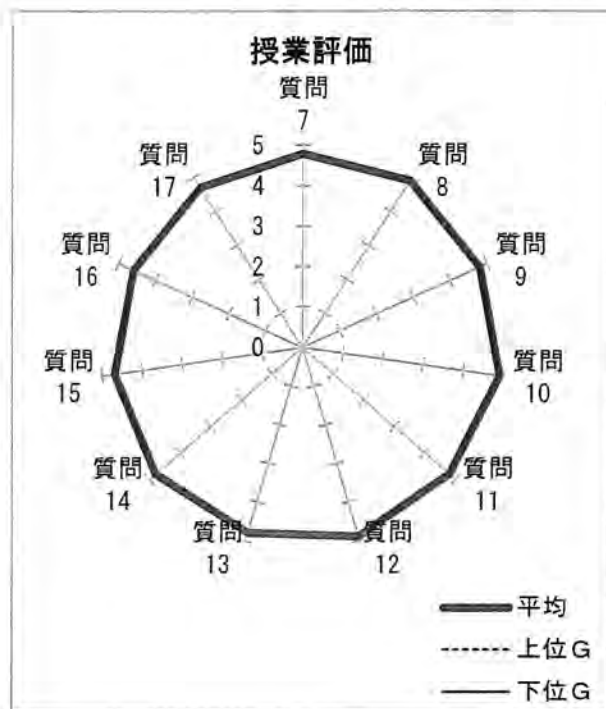
2018 年度担当予定科目名 : Andrew Gorringer

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Next year I be teaching the same class. I will teach it in much the same way, although I will be using a new edition of the textbook. I hope the students next year will also improve and try as hard as these students to increase their English skills.

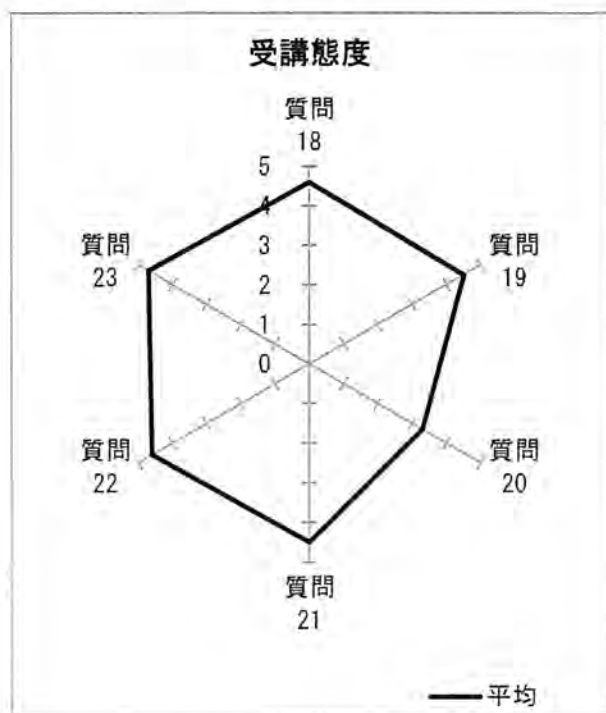
科目コード 145 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sergio Mazzealli Academic English IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	3.3
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.4

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	英 語 学 科	Sergio Mazzearelli	Academic English IV	12

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

I am pleased to see that all students evaluated this course positively. They certainly made sincere efforts to improve their speaking, listening, and presentation skills. The course also benefited from the use of an adapted version of the European Language Portfolio, which allowed them to set clear goals for their activities and reflect on their progress.

II. 2019 年度に向けての取り組み

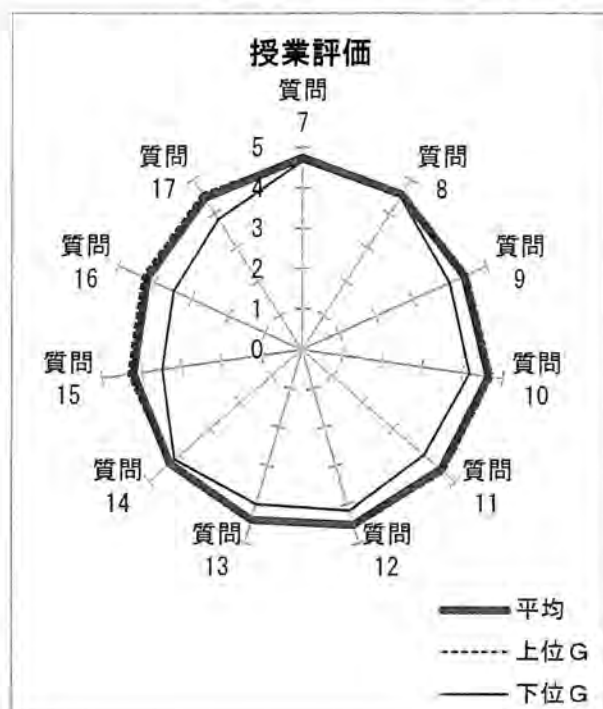
2019 年度担当予定科目名 : Academic English IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Since I was satisfied with my students' progress, I intend to teach the course in the same way next year. However, I hope to be able to help my students obtain even better results by using the second edition of the textbook.

科目コード 146 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sergio Mazzealli English Media Literacy



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	4.7
質問 8	4.6	4.6	4.5
質問 9	4.4	4.5	4.0
質問10	4.6	4.7	4.2
質問11	4.5	4.6	4.0
質問12	4.5	4.6	4.2
質問13	4.4	4.5	4.0
質問14	4.3	4.4	4.2
質問15	4.2	4.4	3.5
質問16	4.2	4.4	3.5
質問17	4.5	4.6	3.8
平均	4.5	4.5	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

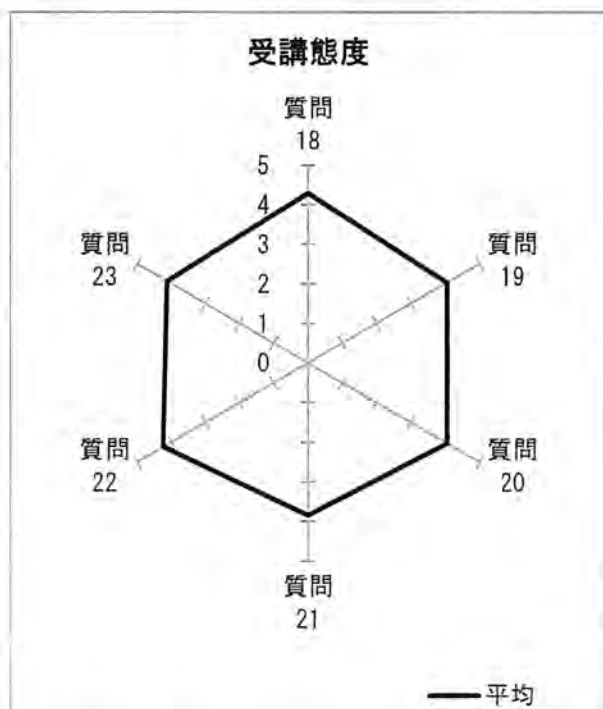
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.1
質問20	4.1
質問21	3.8
質問22	4.2
質問23	4.1
平均	4.1

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英 語 学 科	Sergio Mazzairelli	English Media Literacy	49

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

In this course, students read about important issues in media studies, completed comprehension exercises in class, and then discussed the same issues in online forums as homework. Since all first-year students took the course, the textbook may have been particularly challenging for some of them. In any case, the quality of the homework and final report showed that everyone managed to grasp the issues under discussion. Therefore, I consider the course a success even though I wish my students had more a little more upbeat in their evaluation of it.

II. 2019 年度に向けての取り組み

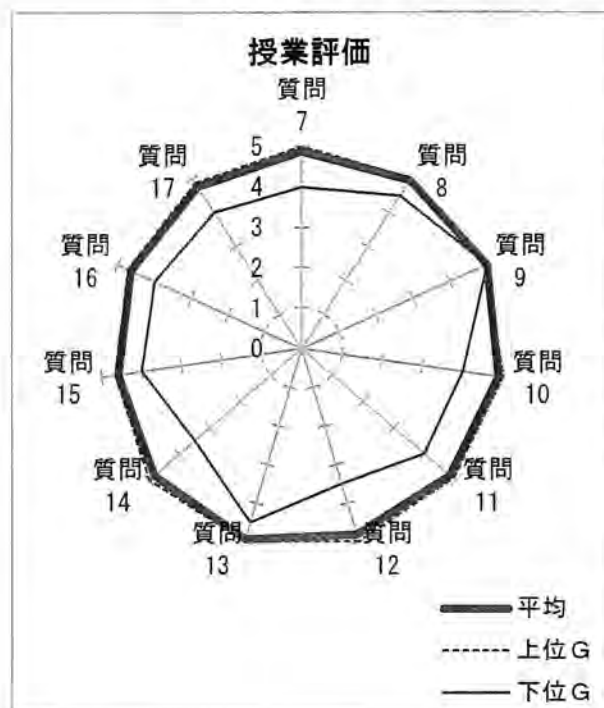
2019 年度担当予定科目名：English Media Literacy

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

This year I experimented to find the best way to use the textbook. I will take advantage of the experience so gained to improve my teaching next year.

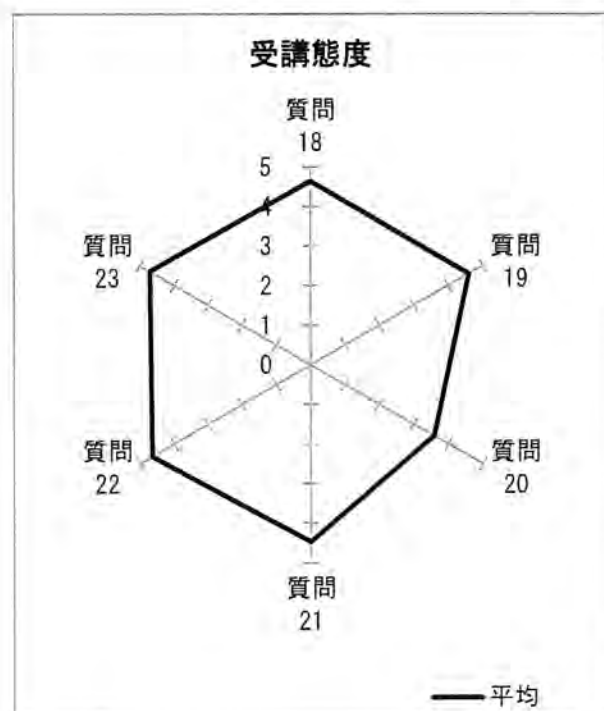
科目コード 147 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sergio Mazzealli Academic Listening IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	5.0	4.0
質問 8	4.9	5.0	4.5
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	4.9	5.0	4.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.8	5.0	3.5
質問13	4.9	5.0	4.5
質問14	4.8	5.0	3.5
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.8	4.9	4.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.6
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	英 語 学 科	Sergio Mazzealli	Academic Listening IV	21

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

All students in this course made efforts to improve their listening, note-taking, and presentation skills. They listened to textbook materials in class and to recordings of their choice outside class. By keeping listening journals in which they described their out-of-class listening experiences, they monitored their learning and developed independent listening habits. They were given the choice of submitting such journals in written form or record them as audio messages in a Microsoft OneNote class notebook. The course also benefited from the use of an adapted version of the European Language Portfolio, which allowed the students to set clear goals for their activities and reflect on their progress. The students were always attentive in class and completed all assignments. I believe that they all made progress.

II. 2019 年度に向けての取り組み

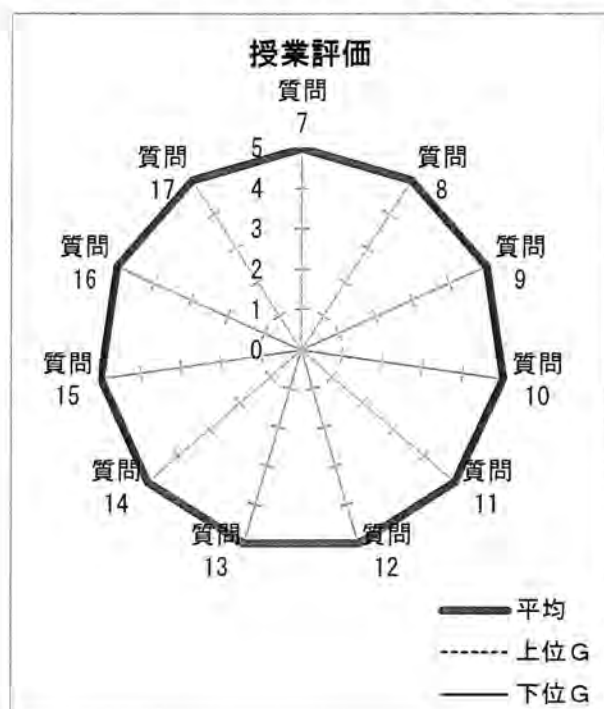
2019 年度担当予定科目名 : Academic English IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Since I was satisfied with my students' progress, I intend to teach the course in the same way next year. However, given the success of audio recorded journals, I will no longer accept journals in written form. Also, I will make more use of PowerPoint slides to show the correct answers to certain exercises, which so far I have provided only verbally.

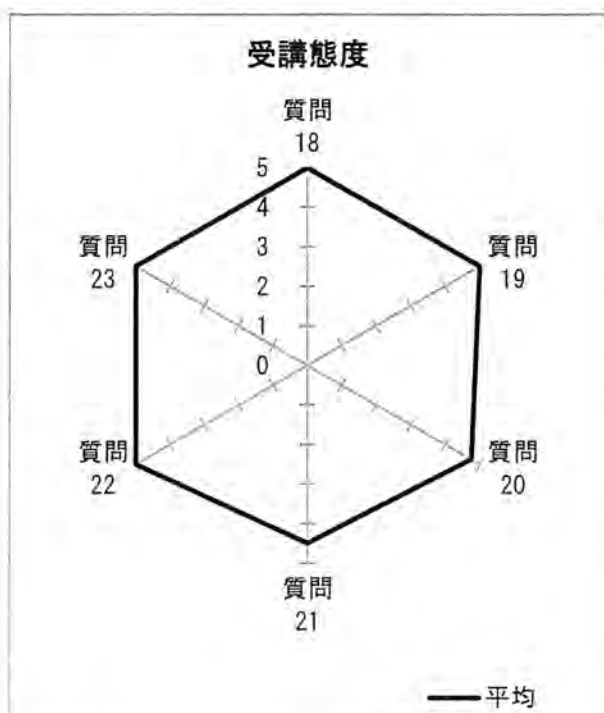
科目コード 148 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sergio Mazzearelli Senior Seminar II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	英 語 学 科	Sergio Mazzarelli	Senior Seminar II	4

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

I am delighted to see that all students were satisfied with this course. Studying a Shakespearean play was certainly challenging for undergraduates. However, the students participated enthusiastically in class and completed all assignments satisfactorily. Two factors are likely to have contributed to the success of the course. First, when selecting the subject matter of the course, I had taken into account my students' interests. Second, because this was a small-group seminar, I could pay sufficient attention to each learner.

II. 2019 年度に向けての取り組み

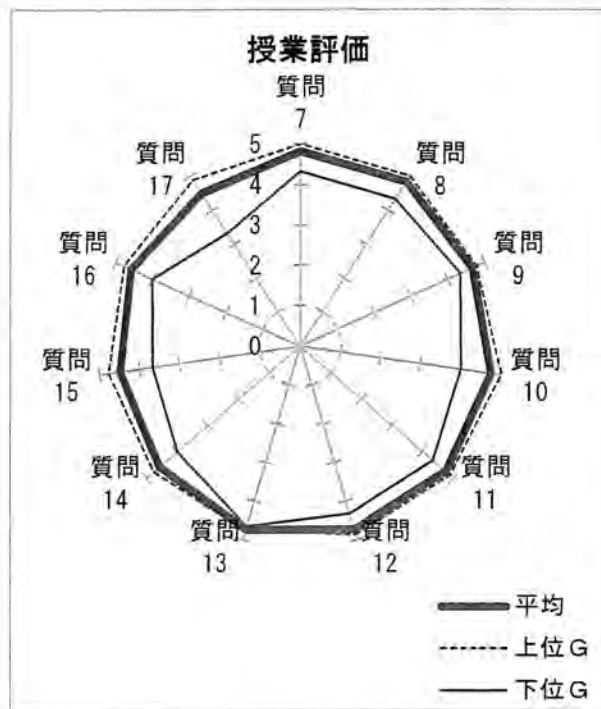
2019 年度担当予定科目名：Senior Seminar II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

An important factor in the success of this seminar in 2018 was the fact that I selected materials suited to my students' interests. Therefore, next year I will keep the same general approach but use different materials that I hope will motivate my new students.

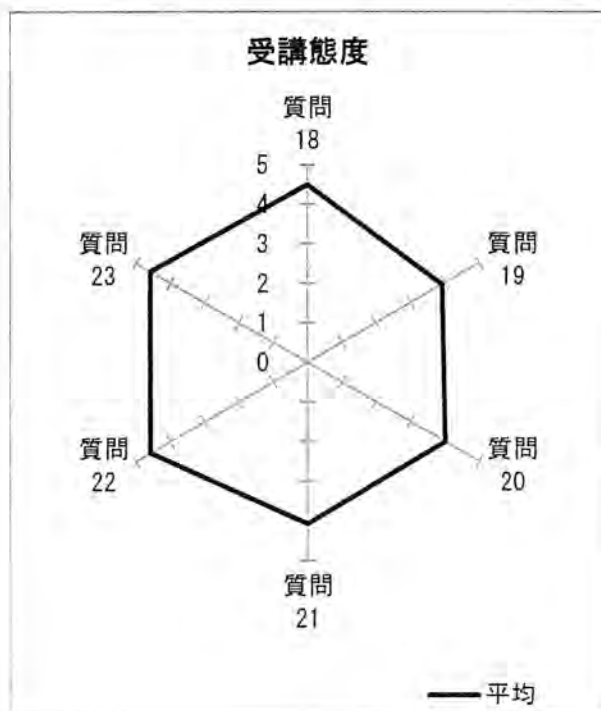
科目コード 149 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sergio Mazzearelli Academic English II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	5.0	4.3
質問 8	4.8	5.0	4.3
質問 9	4.7	4.8	4.3
質問10	4.8	5.0	4.0
質問11	4.8	4.9	4.3
質問12	4.8	4.9	4.3
質問13	4.8	4.8	4.7
質問14	4.6	4.8	4.0
質問15	4.5	4.8	3.7
質問16	4.6	4.8	4.0
質問17	4.5	4.9	3.3
平均	4.7	4.9	4.1

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8：教員の授業時間遵守
 質問 9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	3.9
質問20	4.0
質問21	4.1
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.3

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英 語 学 科	Sergio Mazzarelli	Academic English II	15

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

All students in this course improved their skills. The course benefited from the use of an adapted version of the European Language Portfolio, which allowed the students to set clear goals for their activities and reflect on their progress. Because there was a range of abilities, some students may have felt that part of what was covered was not new to them, especially as regards grammar. However, this was not the case as for knowledge of vocabulary and other cultures because, to supplement the textbook, I introduced a variety of materials covering these areas.

II. 2019 年度に向けての取り組み

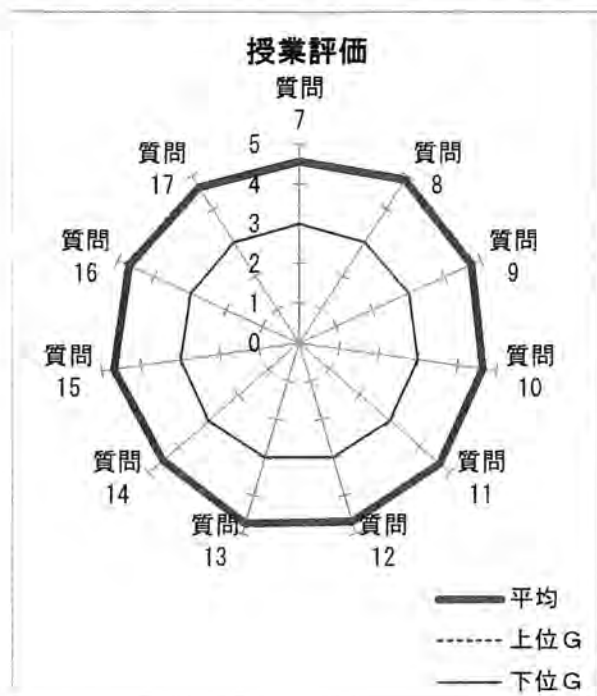
2019 年度担当予定科目名：Academic English II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Since I was satisfied with my students' progress, I intend to teach the course in a similar way next year. However, I hope to be able to help my students obtain even better results by using the second edition of the textbook. The exercises available on the publisher's website have also been improved and should prove helpful.

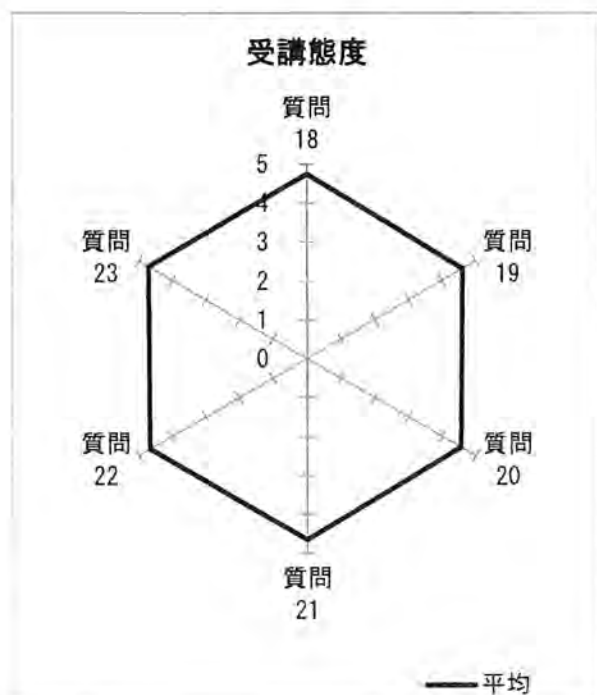
科目コード 150 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 新井 恭子 English for Hospitality and Tourism



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	3.0
質問 8	4.9	5.0	3.0
質問 9	4.7	4.8	3.0
質問10	4.7	4.7	3.0
質問11	4.7	4.7	3.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.7	4.8	3.0
質問14	4.5	4.6	3.0
質問15	4.7	4.8	3.0
質問16	4.7	4.8	3.0
質問17	4.7	4.7	3.0
平均	4.7	4.8	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.6
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	新井恭子	English for Hospitality And Tourism	28名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

一昨年の同授業のアンケートより、全体的に点数が上がっていて、それぞれの項目に 8 割以上の学生が今のやり方に満足しているようである。
積極的に参加するように促したり、グループ活動を充実させて実施したことが良かったのではないかなと思う。

II. 2019 年度に向けての取り組み

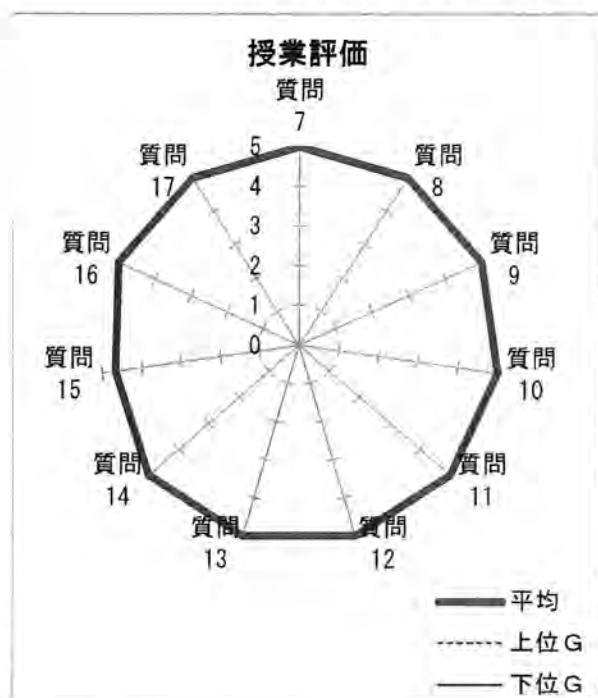
2019 年度担当予定科目名：_____ 同名

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本年度の授業も、同様に、語学の授業とは言え、アクティブラーニング形式で、積極的に授業参加を促し、様々なホスピタリティビジネスの業界にどのような英語力が必要なのか自覚できるように授業を実施したい。

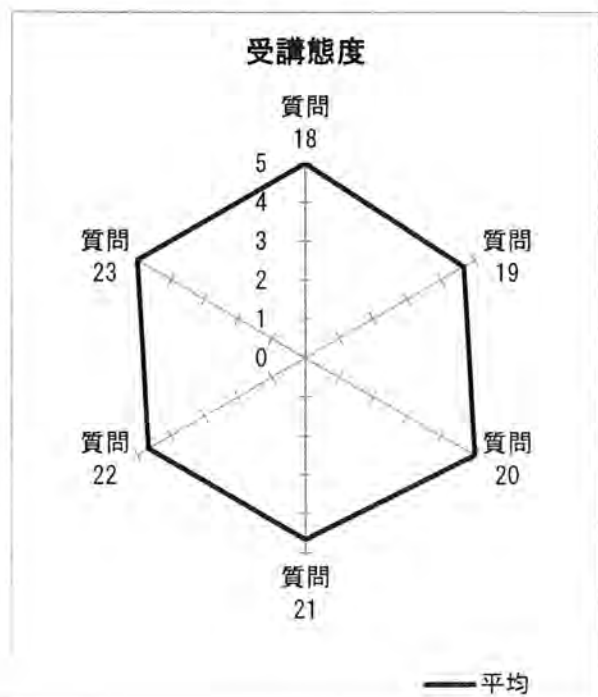
科目コード 151 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 新井 恭子 言語の意味と構造



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.7
質問20	5.0
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	5.0
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	新井恭子	言語の意味と構造	3名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

受講生は少なかったが、3 名（英語学科 2 名、現代日本文化学科留学生 1 名）が優秀で熱心に授業に取り組む学生であったので、授業内容も 3 名のレベルに合わせて、一昨年より難易度の高い言語学の授業を実施した。アンケート結果はそのようなわけで、3 名とも高得点をつけてもらっている。少人数で態度がとても言語学に対して熱心な学生との授業であったので、教師としても理想的な授業であったように思われた。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：_____ 同名

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

本年度は、日本文化学科に異動したので、来年から、言語学の授業も担当するかもしれないと言われているので、今回の授業のように、充実した授業になるよう努力したい。